

企業に求められる海外駐在員と帯同家族の健康管理

——トラベルクリニックの視点から

海外駐在員とその帯同家族には、どのような健康リスクがあるのか。海外での健康管理の課題と対策をモデルケースをベースに解説する。(3月11日開催、日外協「第20回 海外健康・医療セミナー」から抜粋)



講師

(株)トラメディック 代表

医療法人社団 航仁会 西新橋クリニック 院長

大越 裕文 氏

海外勤務に伴う健康リスク

海外勤務には、「環境の変化」を伴う。具体的には、環境・気候・大気汚染などの「自然環境」や感染症などの「衛生環境」、歩行減少や外食・飲酒頻度の増加などの「生活環境(ライフスタイル)」、日本との医療システム・レベルの違いによる受診控えなどの「医療環境」、赴任先の狭い人間関係や不慣れな業務などの「就労環境」などが変化する。

「環境変化」は、「慢性疾患の悪化」や「新規の疾病」を引き起こし、それらは相互に影響を及ぼす。成人男性の「慢性疾患」として多いのは高血圧や糖尿病など生活習慣病。成人女性には婦人科疾患が、小児にはアレルギー疾患や精神・行動の障害がある。特に生活習慣病が悪化した場合、重篤な循環器疾患を併発する。外務省海外邦人援護統計(2023年、図表1)によれば、海外での日本人の死亡原因のトップは循環器疾患などの疾病。

図表1
海外での日本人の死亡原因

	死亡者数
疾病	368
事故・災害	61
自殺	47
犯罪	10
その他	191
計	677

出所：2023年外務省海外邦人援護統計

「新規の疾病」は、アジアでは大気汚染の影響による呼吸器疾患や消化器感染症が多い。シンガポールの診療所の報告では、精神科・心

療内科疾患も多い。7割が帯同家族、30～40代が3分の2を占め、診断名は、適応障害・不安障害・うつ病・発達障害など。

隠れたコストも

海外での医療費は、日本より高額。医療搬送で2～3千万円規模に達することも。保険で賄っても、次年度の保険料が上昇する。本人が療養に入れば業務は止まり、上司や同僚の負担は増す。帯同家族の不調は赴任中止や長期帰国を誘発し、採用・移動・引き継ぎの隠れたコストが積み上がる。安全配慮義務違反のリスクもある。

健康管理の外部委託

事前の評価、予防接種、健診・事後措置、現地ネットワーク、相談窓口の整備は、高額医療費の発生確率と影響度を同時に下げる“健康投資”。しかし、健康管理は多岐にわたるため、外部資源をいかに活用するかがポイント。健康管理の外部委託先には、トラベルクリニックや国内の健康診断施設、海外の医療機関、保険会社、医療アシスタンス会社、EAP(従業員支援プログラム)プロバイダーなどがある。

トラベルクリニックの役割

トラベルクリニックである当院は、企業からの要請に対応するために、クリニックに併設され